

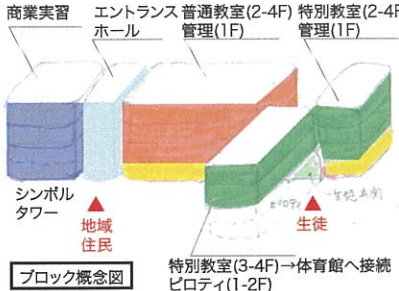
「社会で活躍する人材育成の場として、生徒の創意工夫を引き出す施設づくりのあり方」及び「地域の高等学校としてふさわしいランドマークのあり方」についての提案

体験と交流：都市空間(社会・商業空間)に対応できる実践重視の学校空間づくり

社会で活躍する人材育成の場としての生徒の創意工夫を引き出す施設づくりのあり方

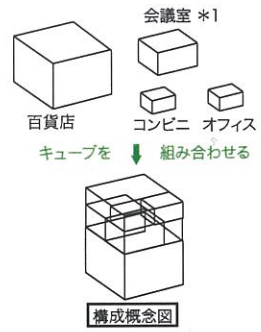
体験・交流を実現する施設としての方針

- 地域の人々との交流や単なる学校授業にとどまらない、生徒の創意工夫による空間活用の体験こそが、社会で活躍する人材育成につながっていきます。
- 福山商業独自の、地域の人々との交流をおこなう学校開放を計画します。



体験：多様な商業空間の用意

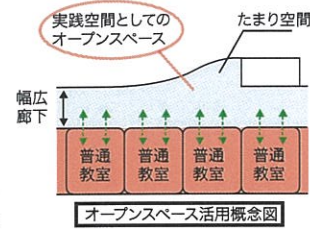
- 都市の中に実在する多様な商業空間に着目し導入します。
- 各商業用途の基本的な寸法体系のキューブを組み合わせボリュームを構成します。
- 上記のボリュームと普通教室をつなぐ空間にはオフィスビルの受付のようなエントランスホールを配し、実践と空間体験を積み重ねます。
- これにより、生徒は空間の寸法の違いによる商業実践の違いを身を持って体験します。



\*1 会議室も商業実務の一部ととらえ、行事の際には生徒の発表の場とする

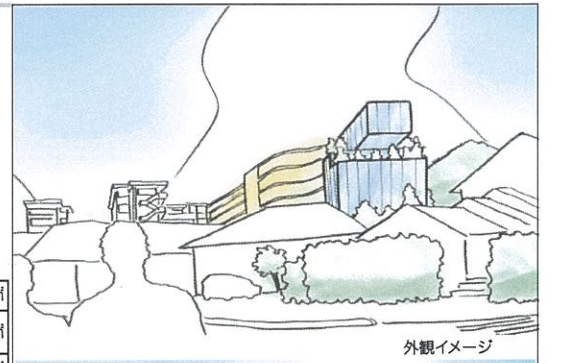
体験：実践の場としてのオープンスペース

- 校舎等の廊下は3mの幅の広い廊下を配し、通常の学校生活や授業において、オープンスペースと同様の活用ができます。
- 日頃の学習の成果や実験的な取組の実践の場所として活用できるように整備します。
- 学業以外の練習・発表スペースとしても活用することができます。
- 生徒の創意工夫を直接的に引き出す空間として整備していきます。



管理部門	708㎡	特別教室	906㎡
実務実習	511㎡	共用スペース(幅広廊下含む)	1,004㎡
普通教室	1,440㎡	合計	4,569㎡

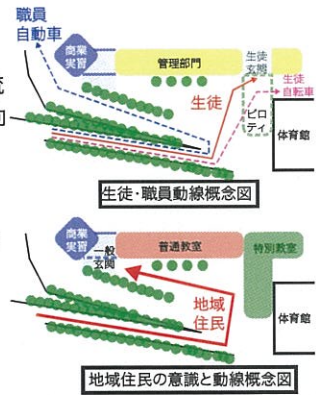
面積表



外観イメージ

交流：地域の人が入り易い動線計画

- 地域の人々が学校に入りやすく、また交流のメインの空間となるシンボルタワーへ向かって誘導できるように計画します。
- 校舎棟から体育館への動線として、特別教室棟を配置します。
- 上記により地域の人々の動線を一度受け止め、植栽等を配置した引き込み動線によりシンボルタワーへ意識を向けます。
- 生徒は使い慣れたピロティをまたいで昇降口、自転車置場へと向かいます。



体験・交流：質の高いサイン計画の導入

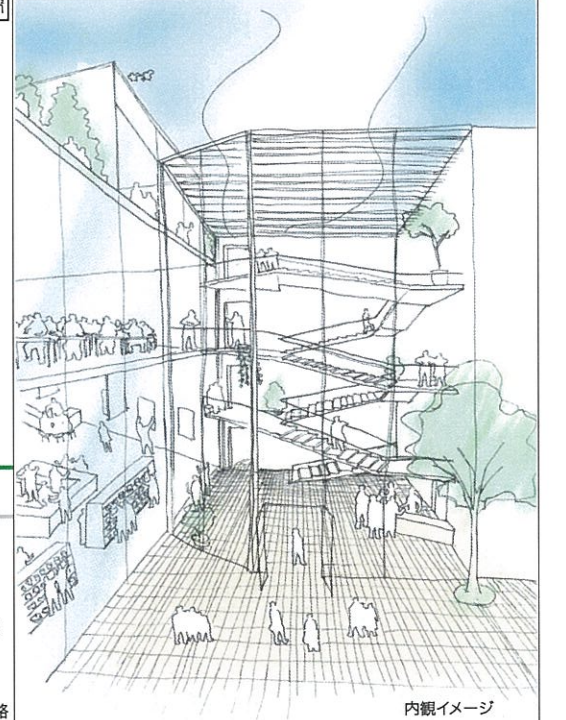
- 学校校舎用のサイン計画ではなく、オフィスビルや都市空間で必要とされるサイン計画を敷地全体に埋め込みます。
- それらのサイン計画を体系的にまた意匠的に整理し、配置します。
- 質の高いデザイン要素が導入される事による空間利用の効果、学校への愛着としての効果、一般の方を呼び込む効果を持っています。



新たにデザインされたピクトグラム付きの視認性の高いサイン計画へ

体験・交流：総合的なデザインバランスの必要性の体験

- 校舎の計画、外構の計画、サイン計画、これらをバランスをもって配置・導入していき、地域の人々との交流を生み出します。
- 校舎の計画において特別教室棟を介した体育館までの動線を検討し、長さを短く抑える事によって、校舎全体のコストも抑えます。
- エントランスホールにおいて、空調負荷を軽減するために、自然換気を中心に計画します。また冬期の暖房が必要な時期においては、床暖房を採用して、ランニングコストの削減に努めます。
- ただ単に商業的な知識や技術だけでなく、物事が成立するために必要なバランス感覚、地域との交流の重要性もこの学校を通して体験できます。



内観イメージ

地域商業高校を象徴する建物の特化と周辺景観との調和を両立させる建物づくり

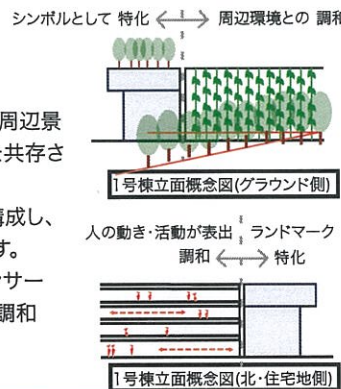
地域の高等学校としてふさわしいランドマークのあり方

福山市の高等学校としての福山商業のランドマークのあり方

- 点的な方針  
住宅街の高台に立地するため、ランドマークとなりやすく、災害時には拠点としての機能も果たす必要があります。日常時のみならず、災害時においても重要なランドマークとなるように計画いたします。
- 線的な方針  
南部地区に位置し、周りを豊かな自然や立派な橋等が存在します。そちらへ向けての新しい眺望軸を獲得できる計画とします。
- 面的な方針  
伝統と歴史の鞆地区、瀬戸内のにぎわいと潤いの沼隈地区へ通じるエリアとして、福山商業は周辺景観からの特化と調和を共存させる計画とします。

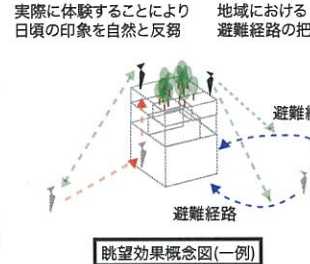
ランドマークとしての校舎の概要

- 特化と調和  
立面としてエントランスホールを境に周辺景観との考え方を分割し、特化と調和を共存させます。
- 特化：福山商業のシンボルタワーを構成し、周辺環境から特化させた構成とします。
- 調和：普通教室・特別教室校舎のファサードは自然豊かな敷地や周辺環境との調和を図る構成とします。



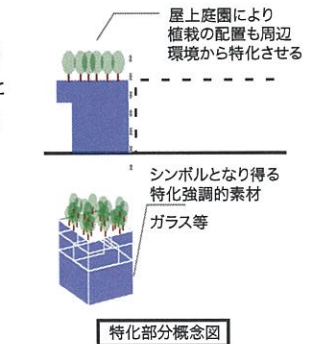
ランドマークの意識における学校開放と眺望の役割

- 学校開放等により地域住民の人々はこのシンボルタワーを体験し、日頃から見ている建物の景観をより身近なランドマークとして捉えることができます。
- またシンボルタワーから周辺景観を眺望することにより、地域における位置づけや個人が持つ景観の印象との調整が自然に行われ、福山商業がより身近で愛着のあるものとして位置づけられていきます。



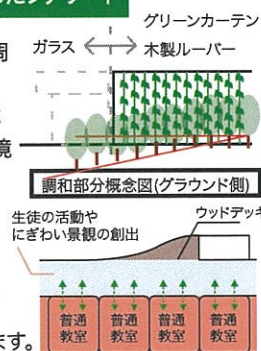
特化：シンボルタワーと屋上庭園

- 商業空間キューブが統合された商業実習ボリュームは商業高校のシンボルタワーとなり、それを強調するように周辺環境から特化させるような素材構成とします。
- 植栽の配置も単に配置するのではなく、屋上庭園を構成し、植栽計画においても特化を図り、建物の存在やシンボル性を印象づけます。



調和：落ち着いたボリューム構成と自然を生かしたファサード

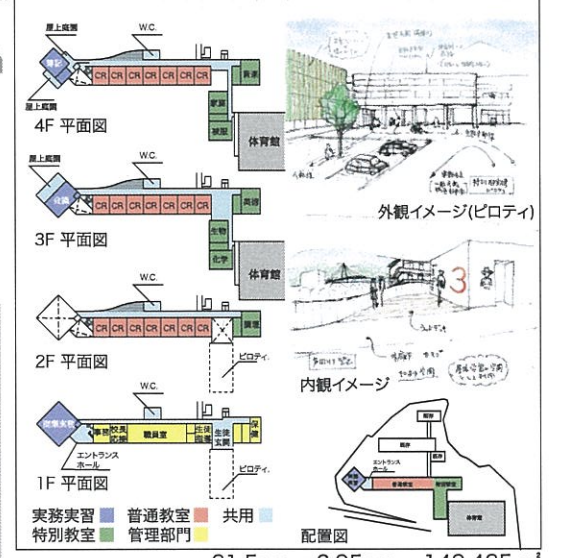
- 普通教室・特別教室校舎の長いボリュームは周辺環境との調和を図ります。
- 南側立面：植栽によるグリーンカーテンを構成し、敷地内の植栽との調和を図ります。また環境負荷対策として木製ルーバーを配します。
- 北側立面：3m廊下における生徒等の活動や動きが、にぎわいの景観を形成し、住宅地のなかに調和していきます。
- たまり空間からの眺望は新しい景観軸を獲得し、周辺からの景観においてアクセントとなります。



日頃の交流を通した避難施設としての認知

- シンボルタワーから周辺景観を眺望することにより、自らの生活領域から福山商業までの経路を俯瞰的に捉え、災害時には避難をスムーズに行う事ができます。
- また学校開放等により福山商業の空間を体験しておく事、設備の概要を把握しておく事により、非常時の避難場所として印象づける事ができます。
- これらにより災害時におけるランドマークとしても位置づけられます。

- 避難時設備リスト
- マンホールトイレ
  - 非常用電源
  - 非常用Wi-Fi
  - かまどとして利用できる外部用椅子
  - 非常時にも活用できる学校備品(展示パネル→自壊遮断用のパネル)(日常より使い方を把握しておく)
  - 拡声器などの周辺地域への非常放送設備



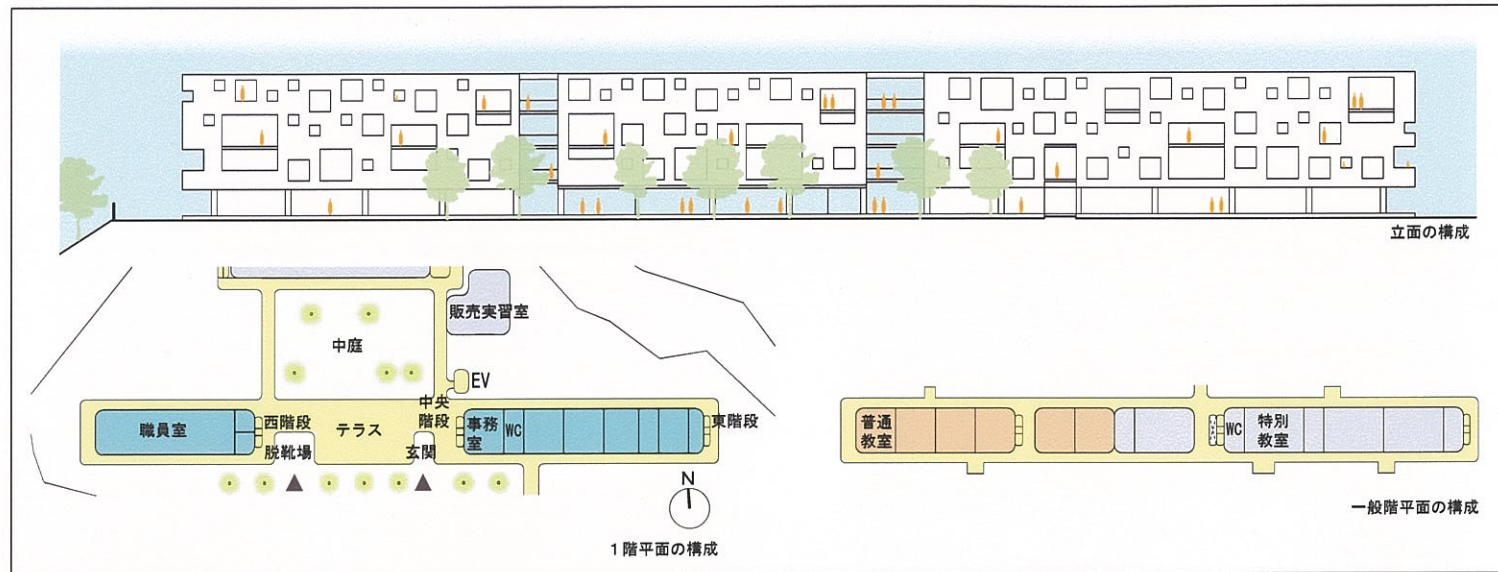
21.5cm x 6.95cm = 149.425 cm

(注) 用紙は、日本工業規格A列3とする。

「社会で活躍する人材育成の場として、生徒の創意工夫を引き出す施設づくりのあり方」及び「地域の高等学校としてふさわしいランドマークのあり方」についての提案

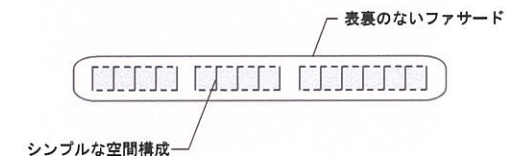
「多様性の空間とつながり」

「人材育成の場」「創意工夫を引き出す施設」を「多様性の空間」と考えます。様々な人に出会い、色々な場所が用意され、多様な空間が体験され、それらがのびのびとつながった施設を提案します。飾りや無駄がなく、創意に満ちた新しい空間が教育環境にふさわしいと考えます。



「裏表のないファサードとシンプルな構成」

教育環境の考え方、作り方がそのまま形態となり、ランドマークとなるべきと考えます。両側廊下の形式としていることで、裏表のないファサードとなります。木の教室群はシンプルな構成ですが、廊下の外壁と開口が変化に富んだランドマークをつくります。



1 様々な回遊動線

片側廊下では単調になりがちな動線は、両側廊下とすることで、様々な回遊動線が生まれ、様々な体験が可能です。3つの階段により、立体的にも回遊できます。今回の計画では提案できませんが、中庭西側にも1, 2階に渡り廊下を設け、大きな回遊性をもたせることを提案します。中庭の中心性も深まります。両面廊下とそれにはさまれた階段により、避難経路に重複のない安全な施設となります。



計画の基本方針

- ・建築物よりも建築物でつくられる「空き」をどうするかを重視します。
- ・建築物には、用途と目的があり使用される場所ですが、空き場所には自由があり、空間と生活を体感する場所です。
- ・中庭を中心とした「空き」を大切に全体計画です。
- ・部屋に附属した廊下という空間認識を改めます。まず、全体を廊下のような空き場所と考えます。その中に居住性の良い教室を入れ込んでいきます。全体が自由な場となり得ると思います。
- ・廊下と教室という概念からはずれることで、イノベーション力を高める、新たなランドマークが誕生すると思います。

1 分節と浮揚

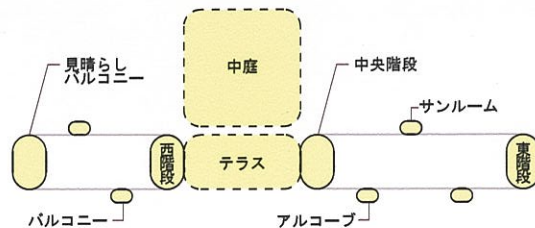
細長い建築物なので、南北に開放された中央階段と西階段で、ボリュームを3つに分節します。また、小高い丘に建つ建物なので、1階はピロティ等、開放的な場所として、地表との連続性を重視します。空に浮いたような形態となり、シンボル性を高めます。長大であるにも関わらず、軽快な印象を与えます。



2 様々な出会いの場

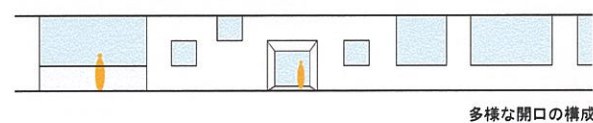
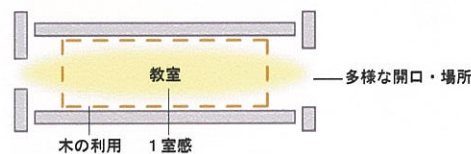
1F 正面には広いピロティのテラスが設けられます。左に脱靴場、右に玄関が設けられます。ピロティの向こうには中心の中庭を見ることができます。ピロティと中庭は連続しており、ミニコンサート等、様々な学校行事にも使えます。ここは全校生徒、教職員のふれあいの場です。

階段がテラス両端に設けられ、上階につながります。上階にもいくつかの出会いの場が設けられます。中央階段は各学年の出会いの場です。吹抜を介しての学年相互の出会いの場でもあります。西階段、東階段も出会いの場です。西端の見晴らしテラス、廊下に設けられるアルコーブ、サンルーム、バルコニーも少人数のためのふれあいの場です。



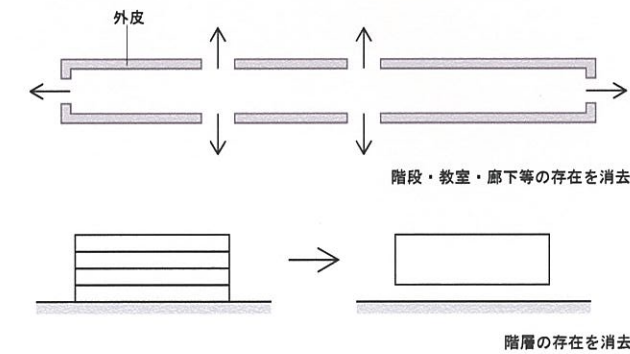
3 廊下、教室も多様な空間体験の場

教室と廊下を仕切る出入口は県産材でつくります。床材、天井ルーバーも県産材を使い、木の香りのする教室とします。廊下は半屋外廊下です。方位、採光、通風、景色を考慮して、多様な開口を設けます。廊下と教室ではなく、廊下を含めた教室として、教室も多様性に富んだ空間となります。



2 階を感じさせないファサードと外壁の構成

廊下を包む外壁(外皮)は、階段やトイレ等も包み込んでおり、シンプルな外観を呈します。そのため、既存校舎に対して反駁することなく、前庭や中庭の背景となります。また、宙に浮いたボリュームは3層ですが、自由な開口の取り方によって、外からは1BOXのボリュームとしてとらえられ、ランドマークとして存在感を高めます。



「社会で活躍する人材育成の場として、生徒の総意工夫を引き出す施設づくりのあり方」及び「地域の高校としてふさわしいランドマークのあり方」についての提案

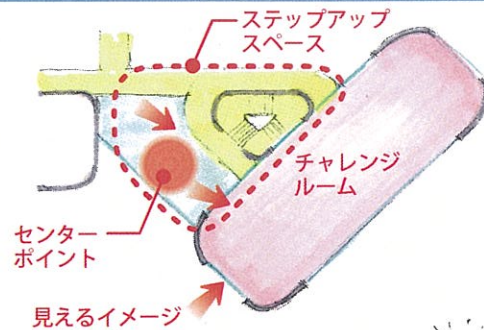
テーマ1 社会で活躍する人材育成の場として、生徒の総意工夫を引き出す施設づくりのあり方

- ・生徒の熱く目標に向かって挑戦（チャレンジ）する気持ちを引き出す校舎づくりを目指します。
- ・“見られている自分”を意識し、自己プロデュースへと発展させる環境作りを考えます。
- ・ビジネス教育の基盤校としてビジネス界の最新情報に触れる場を提供し、積極的な学校生活を支援します。
- ・“人と人とのつながり”や“もてなしの心”など人を思いやるやさしい気持ちが伝わるプランづくりを行います。

1 意欲を高める校舎づくり

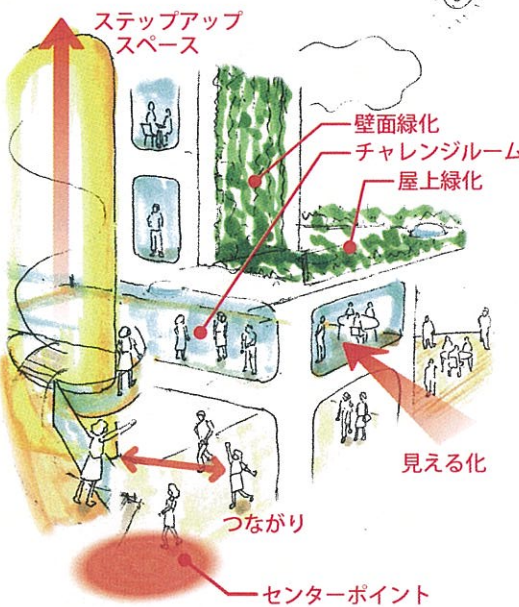
中心点をつくる

- ・みんなの気持ちのベクトルが向かうようなセンターポイントをつくり、つながりを感じるようにします。
- ・新校舎のメイン玄関付近に中心点となるホールを設け、“商”を意識した情報の発信ポイントや活動の起点となるようにします。
- ・ホールは吹き抜けに面して見通しをよくし、上下階のつながりを感じるようにします。



チャレンジルームをつくる

- ・商業実践室や簿記教室など商業高校独自の教室群はチャレンジルームと銘打って生徒の意識を刺激する教室とします。
- ・チャレンジルームはガラス張りとし、“見られている自分”を意識し、自己プロデュースへと発展させる環境作りとします。
- ・チャレンジルームはメイン階段付近に設け、常に生徒の目に触れるようにし“見える化”により挑戦心をかき立てます。
- ・チャレンジルームは外部からも様子を見ることができ、商業系の高校としての独自性を打ち出します。



ステップアップスペースをつくる

- ・チャレンジルーム周辺のホール、階段、廊下をステップアップスペースと銘打って生徒のやる気を引き出す空間とします。
- ・ステップアップスペース沿いにビジネス界の最新情報が入手出来るコーナーを設け、時代の最先端を意識できるようにします。
- ・資格取得の目標や進捗状況をグラフィックや色彩で表現し、生徒の気持ちを盛り上げ応援します。

将来を見据える環境を整備する

- ・耐震壁は最小限とし、将来のカリキュラムの変更にも対応できるようにします。
- ・インターネットやコンピューター環境の充実を図り、時代に適応した学習形態とします。

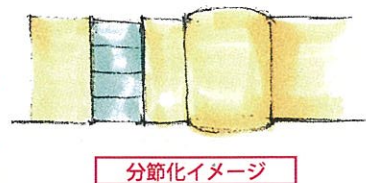
2 人を包み込むような校舎づくり

迎え入れる学校

- ・車寄せや思いやり駐車場に屋根を架け利便性を高めるとともに、やさしく人を迎え入れる雰囲気醸成をします。

ヒューマンスケールの姿（新校舎南面をデザインする）

- ・新校舎は平面的な分節化を行い、人に馴染む大きさであるヒューマンスケールに近づけ威圧感を軽減します。
- ・外壁面の横方向のラインを強調し、高さへの印象に変化をもたらすデザインで圧迫感を軽減します。



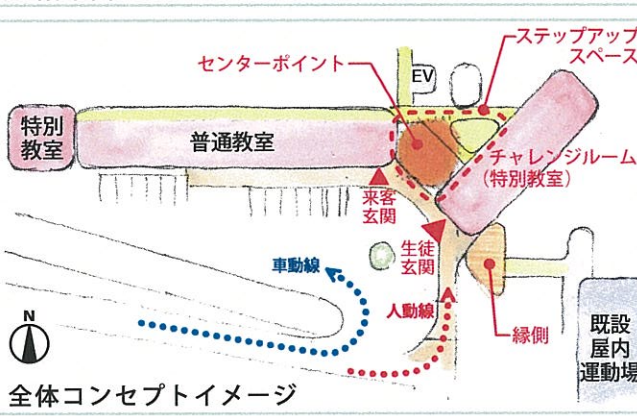
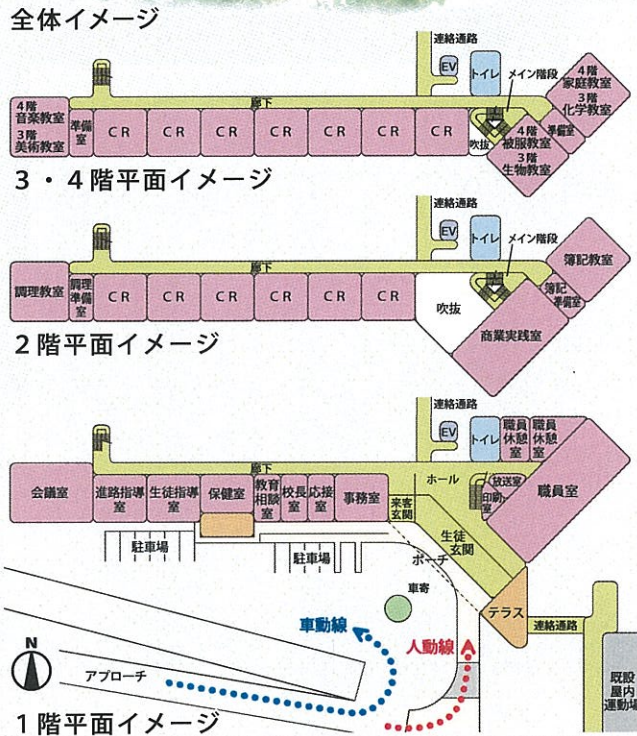
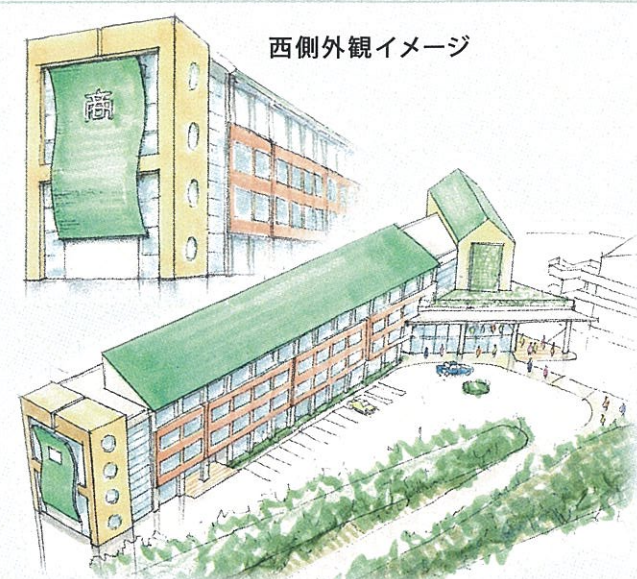
人にやさしい仕組み

- ・内装や手に触れる部分の木質化を図り、温もりのある空間づくりを目指します。
- ・バリアフリーや万人に使いやすいユニバーサルデザインを徹底します。
- ・外部アプローチは歩車分離を可能とし、安全性に配慮します。

やさしく見守り

- ・職員室や事務室から全体の様子が把握でき、生徒をやさしく見守る事ができます。

木質化をデザインする



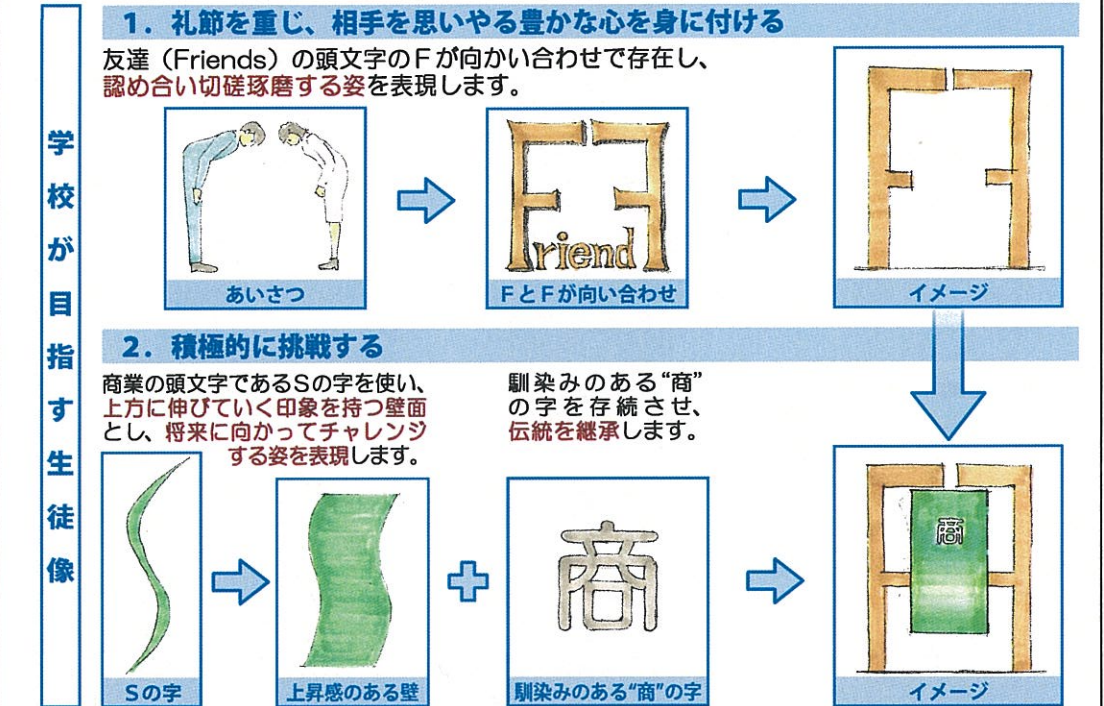
テーマ2 地域の高校としてふさわしいランドマークのあり方

- ・福山地区唯一の商業高校として「地域と共に歩む福山商業高校」をテーマに、地域との共存を目指したつくりとします。
- ・県道22号線や地域の住宅街からよく見える小高い丘の上に立つ学校として、学校の方針や願いを形にして地域のシンボルとなるようにします。
- ・直線基調の既存校舎との調和を図りつつ、曲線やガラス張りの部分を設け、快活なイメージで地域の方が親しみやすい雰囲気とします。
- ・招き入れた人々の“心地良さ”を学校の敷地に演出し、地域の財産となるようにします。

1 地域の顔づくり

意味を持つ形をつくる

- ・外部から一番よく見える西側外観において、学校が目指す生徒像として謳われている内容を象徴化して表現します。



意味を持つ外観を表現する事により学校の思いを共有し、オンリーワンの姿として誇りを感じるようにします。

心に響く光

- ・玄関付近に3つのトップライトを設け、館内の明るさを確保し、射し込む3本の光を校訓に置き換え「誠実」「自主」「創造」の思いを生徒の心に刻むようにします。
- ・採光に配慮した校舎とし、清潔感を感じるようにします。



2 地域との接点づくり

快活なつくり

- ・直線基調の既存校舎とのバランスを図りながら曲線やガラス張りを部分的に採り入れ、快活な雰囲気開放感のあるつくりとします。

地域との交流の場となる縁側

- ・地域と学校を結ぶ縁側のようなテラスを作り、学校開放時に訪れる人との交流が図れるようにします。（通常は生徒の憩いのスペースとしても、屋内運動場への連絡スペースとしても利用でき連絡通路を削減します）

自然に引き込まれるアプローチ

- ・正門から桜並木の坂道を登った視線の方向に、地域の方を迎え入れるような低層の建物を設けます。（高さを抑えることで威圧感を軽減します。）
- ・学校の敷地があたかも地域の公園となるような居心地のよさを目指します。

